

『逍遙館長的ころ』をお読みくださったみなさまへ

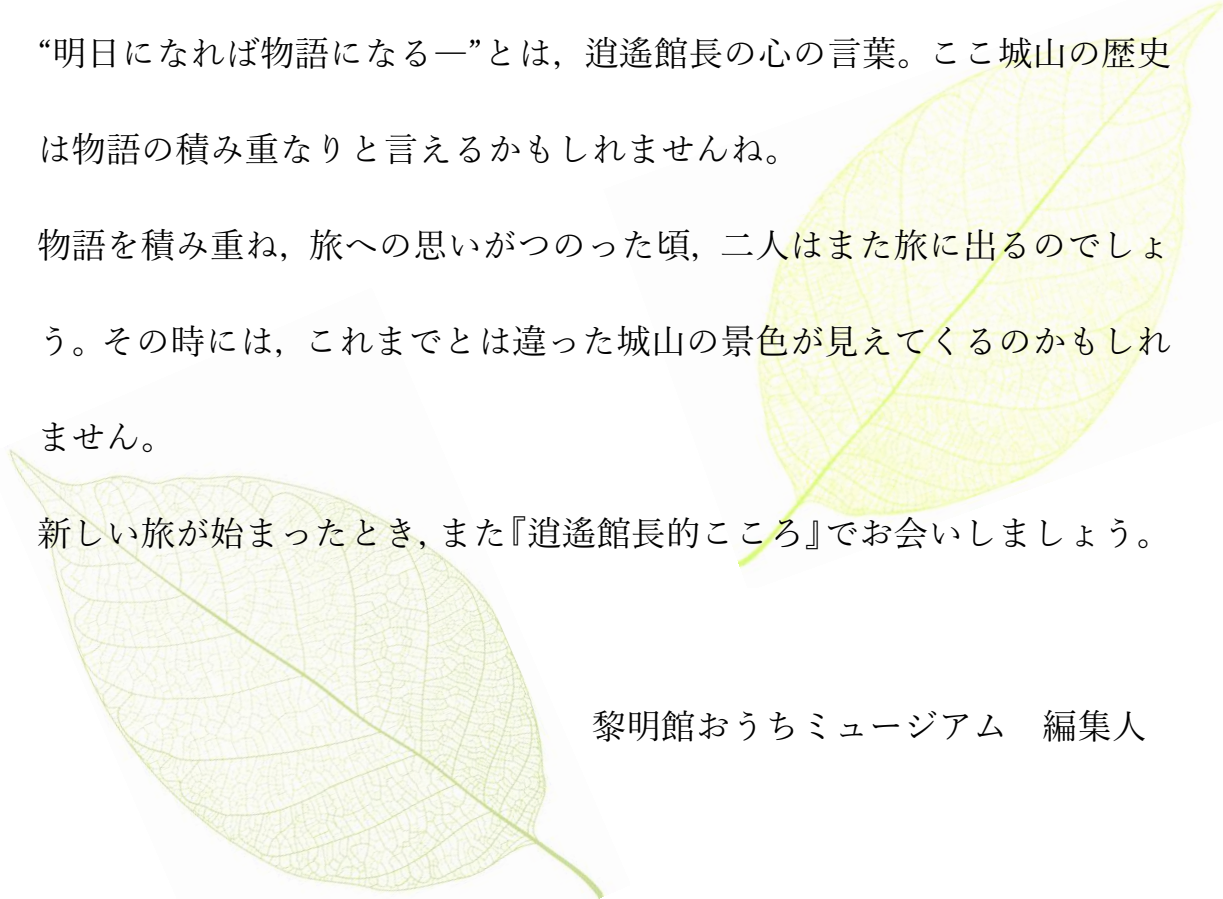
雌猫の“すず”と“逍遙館長”がくり広げてきた、城山の歴史よもやま話の旅は、探勝園をスタートして、鹿児島城二の丸跡、本丸跡、御楼門、私学校跡を経て名山堀まで足を延ばし、西郷隆盛像に辿りつきました。

旅の最後に眺めた西郷の姿に、「優しさ」という人間の本質的な強さを見いだした二人。鹿児島城の麓エリアを一筆書きにめぐる旅を終え、いまはほっと一息つきながら、新たな日常に向き合う日々。

歴史の中で起こった出来事や人々の喜び、哀しみ、そして私たちの日常も、“明日になれば物語になる”とは、逍遙館長の心の言葉。ここ城山の歴史は物語の積み重なりと言えるかもしれませんね。

物語を積み重ね、旅への思いがつのった頃、二人はまた旅に出るのでしよう。その時には、これまでとは違った城山の景色が見えてくるのかもしれない。

新しい旅が始まったとき、また『逍遙館長的ころ』でお会いしましょう。



黎明館おうちミュージアム 編集人